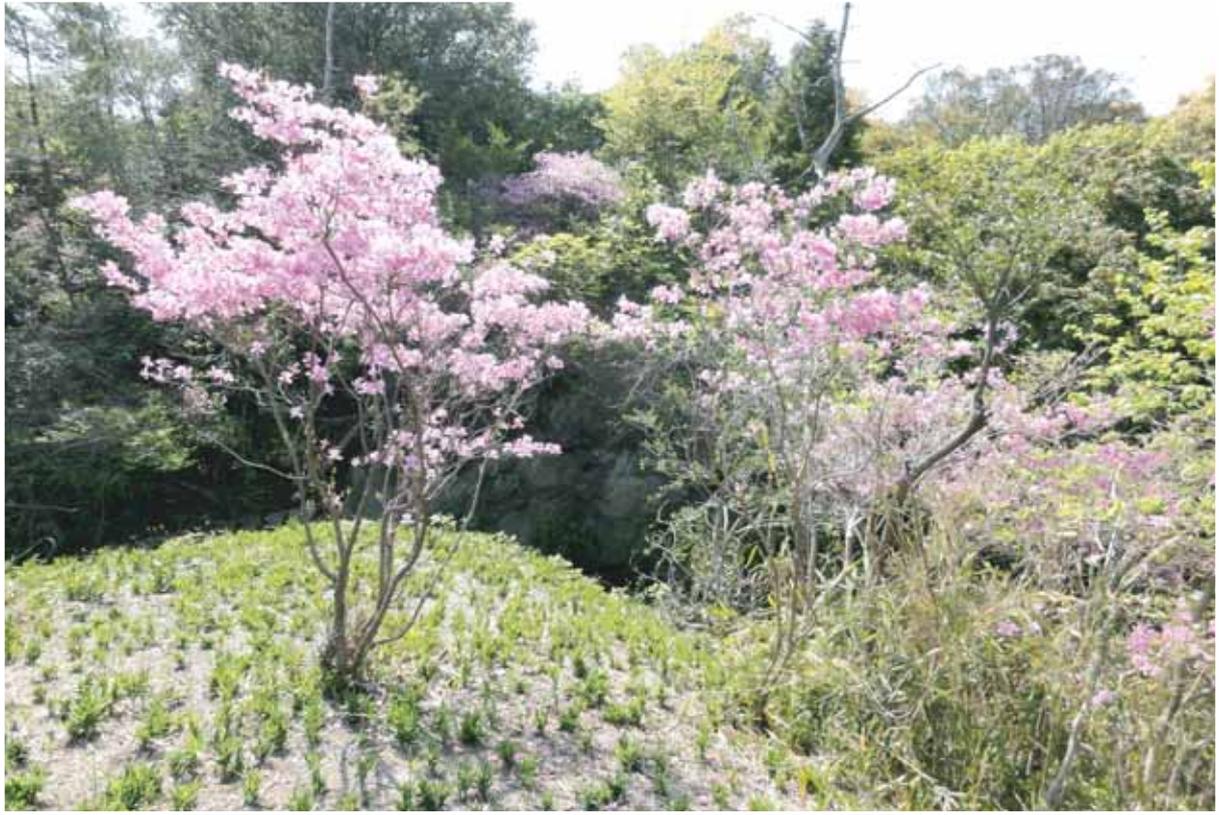


ふれ愛の町 ひろしまを つくる会

「島づくり計画」



ふれ愛の町ひろしまをつくる会



「島づくり計画」策定に際して

ふれ愛の町ひろしまをつくる会 会長 横瀬 實

人が住むところには、自治会があり、コミュニティが出来ております。

広島地域内の小手島・手島・広島では、明治、大正、昭和の3時代、戦後の昭和30年前後の一時期を除けば、約3,500名の人々が住み続けておりましたが、昭和40年頃より島外への人口流出と島民の高齢化が進み、現在では3島の島民が約370名高齢者率62%となっています。しかし、年老いても、自然環境に恵まれた島で安心して暮らせるような生活環境づくり、そして島にしかない良さの情報発信により、交流人口を増し、短期移住から定住へと島を引き継ぎ、住む人が増えればと考えています。

この島づくり計画は、香川大学の准教授でありました室井先生が島内多くの人達から意見聴取、また島外の島出身者へのアンケート調査をし、まとめた「離島の地域福祉と事業NPO」も参考にさせていただいております。

島民の一人ひとりの方々が、島づくりに関心を持ち、出来ることから少しずつからでも、始めなければという認識を持って、ご協力をいただけるようお願いいたします。

目次

挨拶	2
しまづくりの思い	4
• 広島の現状 人口・高齢者率	5
公的施設	6
歴史的資料①	6
歴史的資料②	8
• ふれ愛の町ひろしまをつくる会とは	9
コミュニティの組織	9
コミュニティの目的	10
コミュニティ部会の活動	
総務部	11
生活部	12
社会福祉部	13
体育部	14
保健部	15
コミュニティ活動の課題	16
コミュニティの魅力	17
• しまづくり計画の目的	18
しまづくり計画 I	19
II	20
III	21
しまづくり計画の実践	22

島づくりの思い



高齢者とともに、いきいきと 生活できる島づくり

「高齢者とともに、いきいきと生活できる島づくり」を目指して、「コミュニティ ふれ愛の町ひろしまをつくる会」「広島校区連合自治会」「特定非営利活動団体 石の里ひろしま」が連携し、構成員・構成団体がまとまり、活動を行うこととします。

【人口】

年 島名	平成 12 年 (人)	平成 17 年 (人)	平成 22 年 (人)	22 年 / 17 年 対比 (%)
広 島	453	351	281	80.1
手 島	72	54	40	74.1
小手島	96	51	53	103.9
合 計	621	456	374	82.0

人口については、小手島のように、一時期増加することもあります。長期で大幅に減ってきています。ほぼ10年間で、247人という人数減となっています。

【高齢者率】 (%)

年 島名	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年
広 島	56.1	64.1	70.1
手 島	76.4	87.0	82.5
小手島	21.9	31.4	32.1

高齢者率の増加傾向は急激ではありませんが、全般的に進んでいます。しかし、母体の人数が少ないこともあり、高齢者以外の転入が増加することで手島のように高齢者率が低下する状況もあります。



広島



広島市民センター
広島小中学校(休校)
広島保育所(休所)
広島診療所
広島デイサービスセンター
江の浦待合所



手島

手島自然教育センター
公民館



小手島

小手島小中学校(休校)

施設があっても機能が休止している施設が多く、施設の再開が望まれます。また、施設の建設から長期間経過しています。





広島

江の浦…広島神社 船絵馬

茂 浦…正福寺 勝海舟書
木村摂津守感謝状
華鬘
塩釜神社 船絵馬



手島

東照神社船絵馬

安養寺 木造阿弥陀如来坐像

金輪寺 絹本着色涅槃図
木造 薬師如来坐像
木造持国 天立像
木造多聞天立像

広島



江の浦
英国士官レキの墓

立石
尾上邸

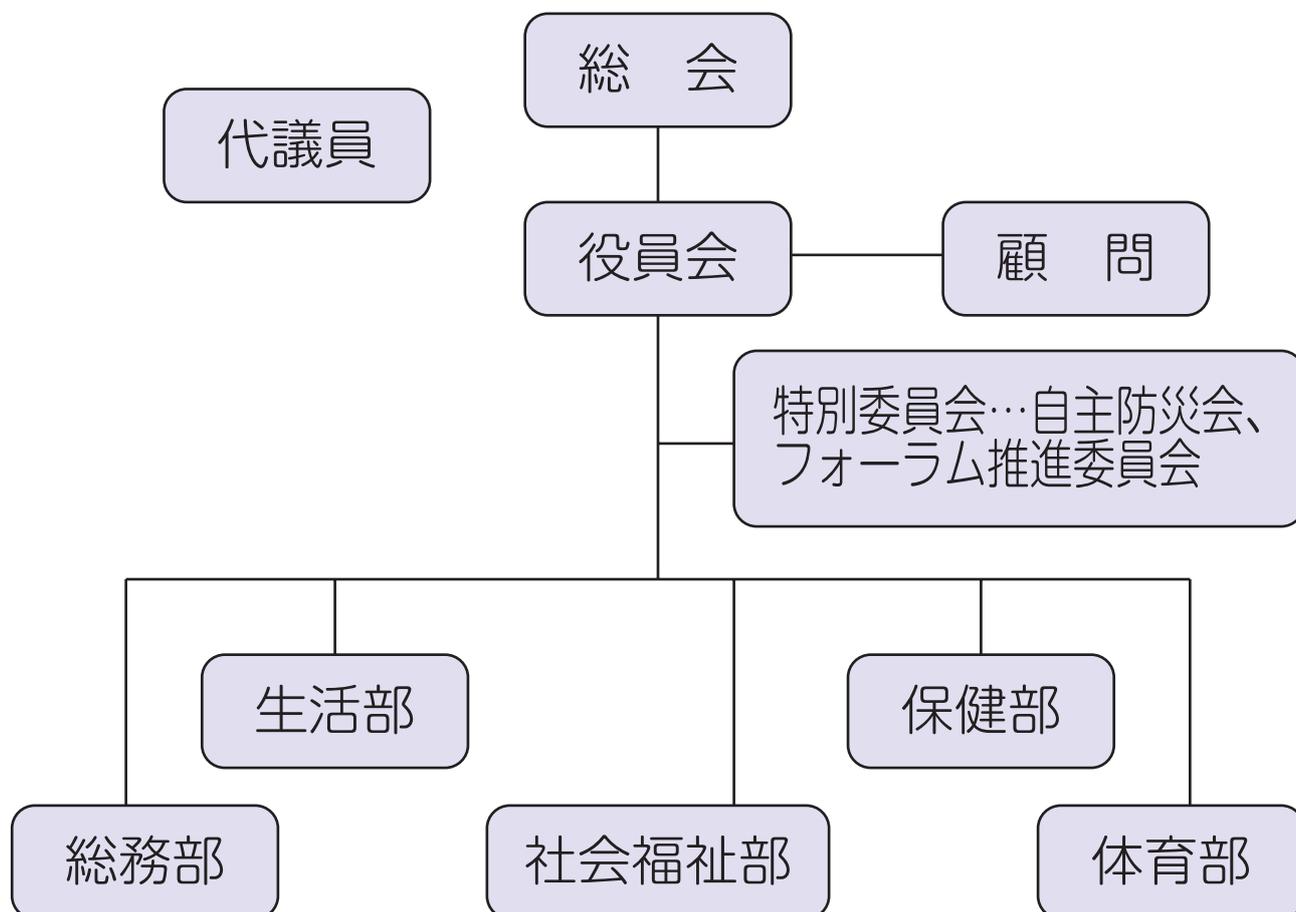


手島

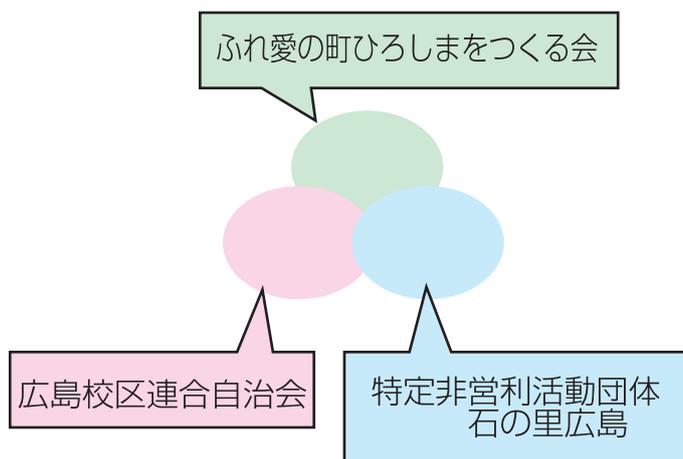
公民館(昔の芝居小屋)
制札場

ふれ愛の町ひろしまをつくる会とは

組織図 1



連携図



ふれ愛の町ひろしまをつくる会とは

目的・組織要員

目的

本会は広島地区住民の自主性と相互の信頼関係に基づく生活共同体として、快適で安全な生活環境、健康で文化的な生活を目指して、心ふれあう住みよい豊かな町づくりを推進することを目的とする。



事業

啓発活動の積極的推進、健康づくり運動の推進、保健栄養思想の普及、地域環境対策の推進、社会福祉の増進及びコミュニティづくり、教育文化活動及びレクリエーションの推進、生活改善指導の推進、自治会・関係機関・諸団体との連絡運営及び諸事業に協力・推進、その他本会目的達成のために必要な事項。



◆組織の要員・出身母体

自治会長、老人クラブ、民生児童委員、主任児童委員、福祉ママ会議、福祉協力員、更生保護婦人会、食生活改善推進協議会、体育協会、NPO法人石の里広島、フォーラム推進委員会、コミュニティセンター、消防団、JA広島事業所、郵便局、青木石材組合、駐在所、漁業組合、診療所、保護司、小中学校PTA、学校関係者、母子愛育班、各種クラブ活動代表者、交通安全広島支部、地域安全推進委員、自主防災会



コミュニティセンターの運営協力 広報紙の発刊 各種研修企画(研修会・視察・講演会) ふれ愛まつり

総務部では、広報紙の発刊として、2ヶ月に一度の割合でコミュニティ広報紙を100号を越す発刊を行っています。内容は、地域の行事の報告や取り組み内容、予定や石の里の特集記事で、広島全体で、地域の現状がよくわかると高評価を得ています。研修会等では、今日的課題について学んでいくこととしています。ふれ愛まつりは、コミュニティの文化・芸術の発表会となっており、手芸などから工芸作品等や落語、カラオケ、劇など日ごろからの成果を披露しています。バザーや準備も含めて、コミュニティ総出での取り組みが、地域の交流をより深めています。



美化運動、清掃キャンペーン、
ゴミを捨てない運動、クリーン
活動、空き缶等不法投棄防止、
資源ごみ回収、交通安全運動、
青少年健全育成運動、人権を守
る運動



生活部では、環境整備に努めています。島内の美化活動では各自治会が実施している。資源ごみの回収などで清潔な住みよい島づくりを実践しています。また、交通安全運動や人権を守る運動もこの部の取り組みとして行っています。



友愛訪問(一人暮らし高齢者、寝たきり高齢者)、
食事サービス、長寿者訪問施設訪問、三世代ふ
れあい広場、オアシス運動、共同募金、敬老会、
日赤社資、歳末助け合い運動

社会福祉部では、島で生活を続けるための互助・共助的な活動を行っています。身近な活動が島での住みやすい環境を維持していることは、今までに増して、これからも重要なことです。



町民合同運動会、町民球技大会、
歩け歩け運動、ハイキング、
健康ウォーク、初日の出を迎える会



体育部では、島での健康維持を進めていく生涯スポーツの振興を進めています。また、広島の連帯意識の高揚となる運動会や球技大会ではそれぞれが活躍できる豊富な競技を設け、参加者の満足感をより高めています。伝統的な初日の出を迎える会はより多くの人に参加できるように王頭山から立石に変更されそのことで参加者も増加しています。

健康教室 健康展



料理教室 見守り活動

保健部では、食生活の改善によって、健康な身体づくりを進めたり、健康意識の向上に向けた健康教室を行うこととなっています。食生活の改善では、年に数回研修を行い、生活習慣病などの予防活動に取り組んでいます。

コミュニティ活動の課題



コミュニティ内の人口の減少

人口が減少することで、購買力が低下し、島内の小売業が衰退する。そのために買物が不自由となる。各種団体の加入者が減り、活動自体の存続が危惧される。また、空家、放棄農地が増加していく。

コミュニティ内の高齢者が増加

要支援者や要介護者が増加することで、支援体制の必要性が高まる。

コミュニティ組織の活動人材の不足

特定の人に役割が重複するために、活動の広がりが限界が出ることや後継者の育成が困難状況となる。

コミュニティ内の資源(人・自然・歴史等)の活用不足

島の資源が活用されず、失われていく可能性がある。

コミュニティの魅力



自然環境

春のツツジ・桜や秋の紅葉・アケビなどの里山的な植生がある。広葉樹もあり、甲虫などの昆虫も豊富な環境がある。遠浅の砂浜が維持されている。山頂などからの備讃瀬戸の眺望も素晴らしい。

人的魅力

歴史적으로お接待の風習があり、ホスピタリー(おもてなし)の精神がいきずいている。受容性が豊かで、素朴さがある。

歴史的な資料が豊富

塩飽諸島として、繁栄した資料が残されている。

NPO組織が発足維持されている

島民が全員加入のNPO石の里広島があり、島のデイサービス、バス事業等を展開している。



島づくり計画の目的

1

島に住んでいる人の生活を どう維持・改善していくか

人口が減少して、高齢化が進む島で、島に住んでいる人の生活環境を維持・改善していくことがなくては、今後基本的な生活ができなくなる可能性が高まる。コミュニティとしてすべきことを実行していくことが計画の目的となる。

2

島外の人たちとの交流・支援を どう構築するか

島の人口減少や高齢化による衰退を止め、活性化するためには、島外者との交流・支援をなくしては困難であり、島在住者がどう構築していくことが計画の目的となる。

3

NPO法人石の里広島との 連携強化をどう図るか

島民が全員参加して利点をいかに活かして、今後の島内の取り組みを果たす過程で連携を図っていくことが計画の目的となる。

◆現在、コミュニティ活動として、各部が取り組んでいることともに、更に島づくりの目的を明確にして、計画を提起する。



生活の維持・改善

1 買物

生活物資の購入支援

小売業者が衰退する中で、島内での移動販売や宅配便等で購入することもできるが、船を利用して生活物資を購入することが主体となってきて、個々人の対応では生活物資を購入する困難性が高くなっている。

2 生活器具

補修等の支援

生活していく上で、電気製品などの補修等は欠かせないが、島の場合それに対応する業者も限られているため互助的な支援で対応されることもあるが、難しい事例もある。

3 見守り

要介助者に対する見守り

高齢等の理由により、見守りの必要性がある島民は増加しつつあるが、地域で現在できていることを維持することも今後難しくなる状況も考えられる。

4 防災

災害時の要支援者への対応

災害時の対応は、生命の危険性も含めており、その不安を低下させることが島で住み続けることができることになる。

5 救急

救急時の互助対応

傷病での救急対応等は緊急性を持っており、欠かせないが、現在できていることも難しくなりつつある。

6 健康維持

健康教育、介護予防研修

生活の維持には、健康が第一義的であり、個別では機会が少ない。

島外との交流・支援

1 情報提供

コミュニティ紙・ホームページの充実、情報誌等への掲載、
島外希望者への情報提供システムの構築、伝統行事の紹介

情報提供には、情報の媒体を整備することが重要で、現在情報提供のために活用しているコミュニティ紙・ホームページについては、内容等について充実が常に必要である。また、情報誌等についても、積極的に活用することでの情報発信ができていない。島外希望者への情報提供については、自治会等が行っているが、統一されていない。島の良さについて発掘、発信が不十分となっている。

2 短期滞在

滞在先の斡旋

交流が深まることなどで、短期滞在したい要望に対して、宿の紹介は行っているが、短期居住の場合の情報提供が不十分な状況となっている。

3 交流事業

自然・歴史的資源の活用、受入

コミュニティの事業で、島外者の参加も案内しているが、島の資源の活用をより高める事業内容や受入体制の充実が図れる。

4 島内出身者との交流

交流会、情報提供、移住への啓発

島内出身者の島への関心は高く、移住等について希望している者もいるが、帰省時での交流はあるが、未だ情報提供等にも改善すべきことも多い。また、島内への移住についての啓発も必要である。

NPO法人石の里広島との連携

1 生活維持事業などの調査・提案の連携

人口が減少し、高齢化が高まったことで、生活環境を維持するサービスが維持できなくなっている現実がある。買物や電気器具の補修などもその一つであり、生活維持のための事業展開についてNPO法人石の里広島がどう連携できるかを調査し、コミュニティとして提案していく、実践的に成果が見える連携の強化が必要となっている。

2 事業の啓発・参加等の連携

NPO法人石の里広島が行っている事業は島民の要望から発展していることを再認識してもらうために、事業自体や参加することでの効果等を啓発する。また、参加等でコミュニティが主体的に関わる連携が今後NPO法人石の里広島を維持・発展させる上では、不可欠である。

島づくりへの基本姿勢

1 地域の課題の解決に向けて、 自分たちで考え、取り組む姿勢を持つ

コミュニティを取り巻く環境が厳しさを増す中で、コミュニティ活動の充実が求められています。地域で実際に住んでいることが強みとなります。それは、課題を見つけること、自分たちが実践することで活かされます。個々人の問題を自分たちの問題として意識することで、地域の共同体としてのコミュニティの繋がりが太い絆となっていきます。

2 地域内の諸団体との 連携を深める

島内ではコミュニティの構成団体やその他の団体がありますが、これらと密接に連携を深めることで、自らの活動範囲が広まったり、情報収集、情報発信が充実することなどがあり、諸団体の力の結集へ結びつく連携は重要となる。

4 展望を持ち、無理は しない、できること から取り組む

課題は多く、取り組むことも多岐に亘っています。それを全て一度に取り組むことには無理があり、無理をすると組織の維持に困難をきたします。できることを段々と広げながら、無理せず、展望を持って進むことが継続の基本となります。

3 コミュニティ組織 強化を常に考える

計画を実践していく中で、活動が強化され、計画の目的の達成へ進んでいくが、その目的だけでなく、組織強化の視点を持つことが、次の段階へ発展に繋がる。

具体的な実施へ向けて

現状把握

アンケート、ワークショップで

現状を把握することから、何を目標にして活動していくかが明確になります。そのためには、今の状況や何が求められているかなどを適確に把握することから始まります。

人材の養成

ワークショップ、講習を活用

具体的に活動するには、今ある知識や経験を活かすことだけでは困難になる場合があります。新たな知識や能力を高めていくためには、研修を実施しながら進んでいくことが効率的です。

工程表の作成

作成会議で

目的・目標が定まったら、それに向けての工程を確認する適切な工程表の作成で計画が実践できます。

行動→考察→評価→改善→行動→

前向きに進行管理を行うことで、行動の無駄が少なくなり、効率的になり、少ない労力で達成ができてやすくなります。